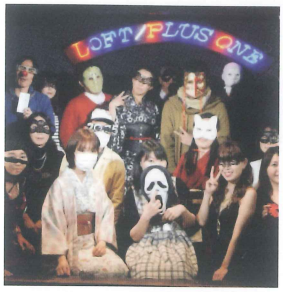
リカの時間

第7回

『18禁読書会』とはどんなエロス空間なのか…

最近、静かなブームを呼んでいる〝読書会〟。課題本を読んで集った人々が、その感想を語り合い、交流の輪を広げるという趣旨のイベントで、文学はもちろんのこと、ビジネス本をテキストとした勉強会や、絵画やクラシック音楽などのアートに特化したものなど、参加者のニーズに対応した様々なイベントが数多く開かれていますが、まさかの〝18禁読書会〟までもがあるという情報をゲット。いったいどんなエロスな空間なのか、さっそく参加してきました！

その名も『猫町UG(アンダーグラウンド)』は、日本最大規模の読書会である『猫町倶楽部』の18禁部門。4回目を迎える今回は、UGというに相応しく、新宿歌舞伎町の地下にあるロフトプラスワンというトークライブスペースで行われました。課題本は日本が誇る変態マゾ作家、谷崎潤一郎の「谷崎潤一郎フェティシズム小説集」「谷崎潤一郎マゾヒズム小説集」のどちらか、もしくはその2冊とも。実はわたくし、かつては、〝ナオミ〟という源氏名で、SMクラブでアルバイトをしていたこともあるほどの谷崎ファンでしたが、今回久方ぶりに読み返してみたところ、まったくもってその内容を忘失していることが発覚。あれほど読み込んでいたはずなのに……。が、再読してもやっぱり面白い。こういうきっかけでもない限り、読み返すことはなかったと思うので、その機会を作ってくれるという意味でも読書会、いいかも。



匿名性を保つはずのマスクが、むしろ個性を引き立たせてます

さて、猫町倶楽部の特徴のひとつには、毎回テーマに沿ったドレスコードがあります。今回は〝マスク〟。というわけでネットで事前購入した黒レースのマスクをつけていざ会場へ。歌舞伎町の路上では、完全に変質者を見る目で見られましたが、しかし会場に入れば一安心。当然のことみなマスク着用です。ゴージャスな飾りのついた仮面舞踏会風や、ジェイソンやスクリームなどの殺人鬼がかぶっていたタイプ、プロレスマスクもいれば、着流しに白いラバーマスクのスケキヨコスプレまで、様々なマスクを付けた人々が一堂に会する様は圧巻。異様な熱気の中、テーブルへと案内されると、ストリッパーの若林美保さんによるオープニングアクト、全身ラバースーツを身に着けてのダンスが始まりました。

ステージで妖しくしなる肉体を固唾を飲んで見守る参加者たち。やがてショーが終わると、同じテーブルになったメンバー同士まずは自己紹介。わたしが着いたテーブルは、推定30代から40代の男性が4人と、20代の女性がひとり、そしてわたしという構成で、そのうち4人が読書会初参加。この方々と、1時間半ほど、じっくり課題本について語り合うワケですが、あらかじめ初参加者と常連、男女の比をバランスよく配置してあることに加えて、基本的に皆、出会いや人とのコミュニケーションを求めてきているので、ほどよくリラックスしたいい雰囲気です。しかし、課題本がフェチやサドマゾや変態性癖を扱ったものであるわけで自然と話もソッチの方向に……。初対面同士、自分の性癖を語ることは、面映ゆいながらも、それが妙に楽しい。コンサバOL風の女性が「匂いフェチです」とか発言するワケでして、興奮してしまいました。

そんなこんなで、あっという間に1時間半が過ぎ、次はいよいよお楽しみイベント、若林美保さんの自縛吊りショー。若林さんが真っ赤な襦袢を肌蹴させると、その下に身に着けているのは褌。そして、身体に麻縄を這わせると恍惚の表情で自分の身体を縛っていきます。淫靡かつ美しい自縄ストリップショーに女性参加者たちもウットリ。

会の締めは、各テーブルからひとり選ばれたベストドレッサーがステージにあがり、記念撮影。ちなみにわたしたちのテーブルが選出したのは、「たまたま見つけたヴェネツィアのマスクを衝動買いして、どこかつけていくところがないかと思って探したら、このイベントを見つけた」という読書会初参加の男性。そんな理由で読書会に参加する人もいるんだ、と変態性を感じました(苦笑)。次回は6月21日、新宿ロフトプラスワン、6月27日名古屋Live&Lounge Vioで開催予定だそうなので、気になる人はネットでサーチを！

写真撮影●寺田幸弘

©みならい

大泉りか
(おおいずみりか)

東京都生まれ。キャバ嬢、SMショーのM女など、アンダーグラウンドな世界にどっぷりと浸った20代を過ごす。'04年に『ファック・ミー・テンダー』(講談社)よりデビュー以後、官能小説や女性向けポルノノベルで活躍中。